



## 湾岸・アラビア半島地域ニュース

### イラク：サドル派の抗議デモ

(10月18日 BBC 他)

18日、バグダッドにおいて、サドル派の呼びかけにより大規模なデモが行われた。デモは「百万人行進」と名づけられ、当初4月に予定されていたが延期され、今回実施された。

1. 数十万(サドル派事務所筋は「百万人が参加」と主張。BBC放送では、「推定5万人」)が、米軍の駐留と米国との安全保障取決めへの署名への反対を唱えながら、サドルシティー及びカーズィミーヤから焼く3キロを行進した。ムスタンシリーヤ広場に着いたデモ参加者は、プッシュ大統領とライス国務長官の人形を米国国旗と共に燃やした。デモは事前にイラク当局の許可を得た上で多数の治安要員が展開する中実施され、事故の発生は報じられていない。スンニー派ワクフの代表、キリスト聖職者、アンバール県の部族、バスラ県のスンニー派、フェイリー・クルド等が参加していたという報道もある。
2. バグダッドのサドル派幹部ハーディ・アル・ムハンマダーウィはムクタダー・アル・サドルのメッセージとして以下を代読した。
  - (1) キャンプ・デーヴィッド合意や、サイクス・ピコ協定にもにせられる米国との取決めに署名することは、政府にとり恥ずべき面汚しとなる。そのため政府は責任を放棄し、取決めを国民に差し戻している。
  - (2) 占領者は基地を残すことになる。取決めが主権を与えてくれると述べる者がいたとしたら、それは嘘つきであり、占領を終わらせることはない。取決めは諸君の手の内にあり、くれぐれも賛成票を投じないように。
3. 19日付政府系アッサバーハに、今回のデモを表現の自由と民主主義の観点から肯定的に評価するファラーハ・アル・ミシュアル編集長の社説が掲載されている。
  - (1) 今回のデモは、米軍の駐留と安全保障取決めへの署名とを拒否するサドル派による平和的な闘争を表現した。これは、イラクの現状が、銃弾ではなく、平和的手段を用いた民主的姿勢にコミットしたものにへと転換していることを確認するもの。これによりサドル派、他の野党勢力に対し、国家の利益と未来とに資する方法を選択することが重要であるとメッセージを伝えた。
  - (2) もう一つ賞賛されるべきは、国の関与ぶりである。治安機関、軍事組織が展開し、国民がデモを通じて目標を表明するための安全な環境が提供された。
  - (3) 米国との安全保障取決めは、その重要性故、支持者と反対者の双方からの反応が見られる。これは政治的自由の延長線上にある健康的な現象である。しかし重要なのは、これらが民主プロセスと国民の利益と将来を維持する枠内で試されることである。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799